稲穂

小樽市立稲穂小学校
学校だより　No.１１
令和　５年２月１７日
文責　校長　大坂　充

【学校の教育目標】
りこうで
たっしゃで
ほがらかな
稲穂の子

稲穂小 WEB

働くとは、仕事とは…

校長　大　坂　　充

６年生の「総合的な学習」では、毎年３学期にキャリア教育としてさまざまな職業の方を外部講師として迎え、お話を聞いています。第１弾は私が職業観や学校の先生という職業について話しました。その後、医師、ガラス職人、サッカー選手と続きます。

私はまず「働くとは」「仕事とは」から話しました。そして、生計を立てるためには、つまり生きていくためには働かなければならないということ、そして日本では国民の三大義務として「勤労の義務」があることも伝えました。

次に、小学生が将来なりたい職業について話しました。今から 34 年前（1989 年）のベスト３は１位「保育士・幼稚園の先生」、２位「プロ野球選手」、３位「学校の先生」でした。昨年の調査では、１位「ユーチューバー」、２位「漫画家・イラストレーター」、３位「芸能人」。以下「プログラマー・ゲームクリエーター」「パティシエ」「学校の先生」と続きます。予想通りでしょうか。心配なのは、現在上位に入っている職業が、安定したサラリーを得ることができる仕事ではないということです。年収１億円超えといわれるユーチューバーもいますが、多くはそれだけでは生活できずバイトで生計を立てています。漫画家や芸能人もそうでしょう。安定とは対局にあるような職業が人気になっているのです。

職業を選ぶために大切にしてほしいことについても話しました。１番はなんといっても「好きなこと」です。好きなことが職業になれば理想的です。ユーチューブが好きだからユーチューバー、サッカーが好きだからサッカー選手。もちろん才能や人一倍の努力は必要でしょうが、好きなことなら頑張れます。２番目は、「得意なこと」です。計算が得意、人と話すことが得意、料理が得意、など得意なことを職業に結びつけるのもいいと思います。３番目は「続けられること」です。仕事となると、一日中それを続けなければならないかも知れません。しかも毎日。続けられるということは重要な要素になります。４番目に「やりがいを感じられること」、５番目に「生計を立てられること」と話しました。

では、自分はどうだったかとふり返ると、学校の先生をしていること、特に担任としての仕事は「好きなこと」でした。授業はもちろん、運動会や学芸会、修学旅行など思い出がたくさんあります。また、「得意なこと」でもありました。小学校の教科を教える上で、苦手だと感じるものはありませんでした。音楽も家庭科も楽しく教えられました。だからこそこの仕事が「続けられること」になり、子どもたちの成長する様子を見て「やりがいも感じられること」にもつながりました。そんな素敵な仕事をして「生計を立てること」ができた自分は幸せ者だと思います。私にとってこの仕事が天職であり、そういう職業に就くことができたことに、そしてこれまでに支えてくださったたくさんの皆さんに感謝しなければならないと思いました。

子どもたちにキャリア教育をしているはずが、自分の職業についてふり返り、感謝の気持ちを新たにする機会となりました。教えながら、教えられているのですね。感謝です。

R4　３つの重点「わかったことや思ったことを伝えることができる」
「自分の体を知り、体力向上や健康に気を付ける」「よりよいものを作り出すために協働できる」

ボス川柳

北海道新聞に掲載された作品を紹介します。

ありがとう　そう言われると　うれしいな
三年　麦田　美佳
（六月二十九日掲載）

三月で　校長先生　お別れだ
四年　黒田　美凜
（一月三日掲載）

あいさつは　ストーブよりも　あたたかい
四年　稲田　弥紗
（一月二十一日掲載）

学校は　たのしいけれど　つかれるな
二年　山本　想祐
（二月十五日掲載）

新１年生１日体験入学 保護者説明会

2月13日(月)、4月に入学を予定しているお子さんの一日体験入学と保護者説明会が行われました。昨年までは、新型コロナウイルス感染症のため、保護者説明会のみを実施していたので、子どもたちが教室に入って体験するのは3年ぶりとなります。

現1年生は、教室に入ってきたみなさんを席に案内し、グループごとに小学校生活について教えたり、楽しい工作を一緒に作ったりしました。

新1年生のみなさんは、「コケコッコー」と鳴く工作を大切そうに抱えながら保護者が待つ体育館に戻りました。

みなさんのご入学を、職員一同 心よりお待ちしております。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

全国の５年生を対象として実施された「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が先日公表されましたので、本校５年生の結果や傾向をお知らせ致します。

調査は「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20m シャトルラン」「50m 走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の８種目について実施されました。８種目の体力の合計点では、男女とも全国平均を下回る結果となりました。

種目別では、男女ともに「長座体前屈」では全国平均を大幅に上回り、男子は「握力」「上体起こし」、女子は「上体起こし」「反復横跳び」では全国とほぼ同じという結果でした。それ以外の種目では課題が見られました。特に「ソフトボール投げ」は男女ともに全国と大きな差がありました。

【今後の取組】

- 本調査結果の分析を行い、児童の体力・運動能力、運動習慣等の課題を明らかにし、「体力向上改善プラン」の見直しを行います。体力向上改善プランをもとに学年ごとの目標を設定し、西陵中学校の体育の先生と連携した取組を実施するなど、年間を通した体力向上の取組を進めます。
- 家庭と学校が一体となり「生活リズムチェックシート」や「おたるスマート７」の取組を進め、運動習慣を取り入れた生活習慣の改善を図ります。
- 小樽市小中学校体力向上検討委員会作成動画や資料を活用するとともに、教員向け研修会等にも積極的に参加し、児童の体力向上に向けた授業づくりや授業改善に努めます。

新型コロナウイルス感染症感染対策について

２月10日に、感染症対策の一部変更について文書と安心メールでお知らせしましたが、国や道は情勢の変化から卒業式や入学式を含むいくつかの変更を通知するようです。マスクについても変更があるとの報道もありました。新たな通知がおり次第、変更する点について協議し、お知らせしたいと思います。

ただし、本校児童に新型コロナウイルス感染症の陽性者がいる、あるいは学級閉鎖等の対応をしているという段階で対策を緩めることは難しいと思われます。もう何日も感染者がいない状態が続いているなど、一定の収束を確認するまでは慎重な対応を継続することをご了承ください。